

日本文化研究班

研究プロジェクト代表

赤間 亮

(立命館大学大学院文学研究科・教授)

「マルチメディア型資料アーカイブの応用と表現」プロジェクト

本プロジェクトでは、他の文系プロジェクトの研究基盤を担う、画像や音声、ビデオが連動するマルチメディア型データベースの様々な応用とそのインターフェイス、ならびに成果をどのように WEB 上で表現するかを研究している。

本プロジェクトで対象とする資料は歴史的な文献や映像が多いため、著作権の切れた資料であり、これらの資料の WEB 上での閲覧・鑑賞、ならびに研究システムの構築が急務である。データベース構築においては、コンテンツのデータフォーマットや、記録方法などを含めて、標準を構築していかなければならない。この点では常に最新のデジタルアーカイブ技術を取入れながら、一方では、研究対象の性格を十分に理解していく必要がある。

まさにこの点では、本プロジェクトは文理統合型の研究者の参加が必要となる。

1, 記録手法、メタデータ構築の研究

本プロジェクトで対象とするデータフォーマットには、テキスト、画像、音声、ビデオがあるが、記録方法にも対象とする資料により様々なものがある。たとえば、近世期絵画の代表である浮世絵において、本プロジェクトの成果により、1枚につき、3種類のライティングによる3枚の画像を記録している。版木の場合は、5種類のライティングにより、5枚の画像を使ったアーカイブである。

また、画像資料の中に特に位置を指定してメタデータを付与する必要な歴史資料も多く、この場合は、位置を記録しながらメタデータを整理していく必要もある。

この対象が、陶磁器や漆器などの立体物であれば、これを客観的に記録するためには、また別の考え方による記録手法が必要であろう。これらの記録手法が決まっても、データベースとしてどのような検索項目が必要なのかは、また対象、あるいは研究方法によって様々である。こうした個々の研究対象を重視したアーカイブ手法、ならびにその応用について、研究会型で実際にデータベースを構築している。

2, ユーザー書込み型研究データベースと成果の表現方法の研究

本プロジェクトでは、資料データと連動させた WEB2.0型インタラクティブデータベースを構築することで、本データベース群を使った個人研究者の研究蓄積が容易にでき、かつ場合によっては、これらの個人ノートが共同利用できるようにするためのデータベースを運用している。

一つは、[ArtWiki]と命名した、MediaWikiシステムを使ったテキスト中心のデータベースである。これは、Wikipediaと同じシステムであるが、専門性を十分に持った本拠点メンバーが書込んでいくものであり、またWikipediaが百科事典であるのに対して、[ArtWiki]は、タイトルと本文という2項目、ならびに画像という非常に単純化された自動ハイパーリンク型データベースとして使うものであり、百科事典を越えた知のアーカイブシステムとして使っていることに特徴がある。また、資料データベースに直結したユーザー書込みデータベースも開発しており、研究者の研究効率を大幅にアップすることができる。